

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------------------|-------|----------------|--|--|----|--|--|--------|----|------|------|-----------|---|-----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 麻生建築&デザイン専門学校 | | 平成9年11月26日 | | 竹口 伸一郎 | | 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人 麻生塾 | | 昭和26年3月12日 | | 麻生 健 | | 〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 (電話) 0948-25-5999 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | 建築学科(夜) | | | 平成25年文部科学省告示第3号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2級建築士・木造建築士の取得を目指すため指定科目において、建築設計、工事監理等の建築士の業務に関する知識、能力を養成する。さらに、2次元、3次元のCAD操作を通し、設計製図の実践教育を行い、倫理観・実践力を持つ人材を育成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 夜間 | 1824時間 | 852時間 | 908時間 | 32時間 | 32時間 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60人 | 26人 | 0人 | 2人 | 16人 | 18人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月1日~8月31日 ■後期: 9月1日~3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価、3分の2以上の出席が必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始: 4月1日~4月8日 ■夏季: 8月7日~9月3日 ■冬季: 12月24日~1月8日 ■学年末: 2月1日~3月31日 | | | 卒業・進級条件 | 単位を取得していること 卒業基準検定を取得している 学年の出席率が90%以上 学生としてふさわしい生活態度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 検定試験指導(希望者) | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況 | ■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 建設業 ■就職指導内容 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導 (すでに就職済みの学生もいる為、希望者のみ。) ■卒業生数 : 7 人 ■就職希望者数 : 3 人 ■就職者数 : 3 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 42.9 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業者に関する平成29年5月1日 時点の情報) | | | 主な学修成果(資格・検定等) | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築士受験資格</td> <td>②</td> <td>10人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 平成27年度 建築設計競技(専門学校の部):佳作1名 平成28年度 建築設計競技(専門学校の部):佳作1名 | | | | | 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | 2級建築士受験資格 | ② | 10人 | 7人 | | | | | | | | | | | | |
| 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2級建築士受験資格 | ② | 10人 | 7人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 1 名 ■中退率 4.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者22名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者21名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学的主要原因 経済的な問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 ガイダンス カウンセリング 学生・保護者・担任での三者面談 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数:9名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.asoiuku.ac.jp/act/subject/archin/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。
また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためお客様アンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

第1回委員会にてカリキュラムに関する意見収集を行い、学内のカリキュラム編成会議の際に取り入れる。その後、第2回会議にて決定してカリキュラムの報告を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|---------------------------|----------------------|----|
| 及川 雅史 | 株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 戸田 康仁郎 | 株式会社 大設計 総務部長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 横山 猛 | 株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 高木 秀樹 | 株式会社 住まいえ 代表取締役 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 高崎 強 | 株式会社 久米設計 九州支社 副支社長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ③ |
| 照井 善明 | NPO FUKUOKA デザインリーグ 理事 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ① |
| 太田 昌幸 | 愛知産業大学 准教授 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | ② |
| 竹口 伸一郎 | 麻生建築&デザイン専門学校 校長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 熊野 学 | 麻生建築&デザイン専門学校 校長代行 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 今泉 清太 | 麻生建築&デザイン専門学校 主任 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 黒木 文雄 | 麻生建築&デザイン専門学校 教員 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、開催時期は7月初旬、11月下旬を予定

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年 7月 1日 16:05～17:45

平成28年度 第2回 平成28年11月24日 15:30～17:10

平成29年度 第1回 平成29年 6月30日 17:00～18:30

平成29年度 第2回 平成29年11月24日 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

各種アプリケーションの使い方や問題の解き方などを教えるHow to的な教育だけでなく、自分自身で考える教育を行う。そのために、各種設計コンペに参加したり、有名建築家の講演会に参加し、それについての意見発表を授業の中で行う全員で討論する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等とのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、将来技術者（建築士など）として活躍するために、学んだ知識やCAD等の技術、コミュニケーション能力等の実務適応能力の確認をおこなうことを目的とする。現場で活かされる実習を通して、必要な創造力や発想力を養っていく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

図学・建築パースにより、立体や空間図形をイメージし、そのイメージをペーパーやディスプレイ上にスケッチする。

(3) 具体的な連携の例

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-----------|-------------------------------|-----------|
| 図学・建築パースⅠ | 立体・空間の作図と模型制作の演習を通して空間把握能力を養う | 石原パースデザイン |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という）の基本方針

「職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・木造建築推進セミナー
- ・構造設計一級建築士指定講習

② 指導力の修得・向上のための研修等

学校全体で行われる各種研修への参加（カウンセリング、インストラクショナルデザイン等）

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・建築CADに関する各種セミナーへの参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

学校全体で行われる各種研修への参加
 （学習障害児への対応（入門編）、障害者への対応（ケーススタディ）、発達障害者への対応（入門編、中級）等）

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|---------------------------------------|
| (1) 教育理念・目標 | 建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他 |
| (2) 学校運営 | 教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス |
| (3) 教育活動 | 業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他 |
| (4) 学修成果 | 教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率 |
| (5) 学生支援 | 担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援 |
| (6) 教育環境 | 教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他 |
| (7) 学生の受入れ募集 | APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試 |
| (8) 財務 | 財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開 |
| (9) 法令等の遵守 | 規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | 社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携 |
| (11) 国際交流 | 留学生の受入れ・支援 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己点検評価報告書に基づく評価項目(中項目)は全て適合の判定結果であった。その中で、地階の喫煙コーナーと駐輪場の分煙化の促進についての要望があり、喫煙コーナーを換気の良い端隅に移動することで、喫煙者と非喫煙者の混合を防ぐように改善した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|--------|---------------------------|--------------------------|---------|
| 永田 和弘 | 在校生保護者 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 保護者 |
| 森 大之 | H28年度卒業生 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 卒業生 |
| 川藤 勝治 | 博多区博多駅南第4区自治会 自治会長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 地域住民 |
| 高木 秀樹 | 株式会社 住まいえ 代表取締役 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 横山 猛 | 株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 高崎 強 | 株式会社 久米設計 九州支社 副支社長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 戸田 康仁郎 | 株式会社 大設計 総務部長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 及川 雅史 | 株式会社 テクノプロ・コンストラクション 労政課長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 三並 恒功 | 株式会社 PBM 代表取締役 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 上原 淳司 | 株式会社 ダイキエンジニアリング 人事部長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 企業関係者 |
| 平野 孝幸 | 福岡県立 福岡工業高等学校 校長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 高等学校関係者 |
| 太田 昌宏 | 愛知産業大学 准教授 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 有識者 |
| 竹口 伸一郎 | 麻生建築&デザイン専門学校 校長 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 学校関係者 |
| 熊野 学 | 麻生建築&デザイン専門学校 校長代行 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 学校関係者 |
| 今泉 清太 | 麻生建築&デザイン専門学校 主任 | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日 | 学校関係者 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|-------------------------------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程 |
| (2)各学科等の教育 | 学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他 |
| (3)教職員 | 教員一覧、専任・兼任教員数 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 学園祭、ボランティア活動、クラブ活動 |
| (6)学生の生活支援 | 臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援 |
| (8)学校の財務 | 貸借対照表、収支計算書、監査報告書 |
| (9)学校評価 | 自己点検・評価、学校関係者評価 |
| (10)国際連携の状況 | インドネシアのBINUS大学、留学生専用学生寮 |
| (11)その他 | なし |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asoiuku.ac.jp/act/>

授業科目等の概要

| (工業専門課程 建築学科 (夜間部)) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|--------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実験・実習・実技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 建築設計製図Ⅰ | 建築製図の基本を身に付け、木造建物の図面を模写する。 | 1前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築設計製図Ⅱ | 木造住宅建物の設計手法を学ぶ。 | 1前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築設計製図Ⅲ | 鉄筋コンクリート建物の図面の模写などを通して、鉄筋コンクリート建物の作図の方法を学ぶ。 | 1後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築設計製図Ⅳ | 鉄筋コンクリート建物（貸し事務所ビル、集合住宅）の設計。 | 1後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築CAD設計製図演習Ⅰ | JwCADの基本的なコマンド操作を覚え、作図技術を習得する。 | 1前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 建築設計製図演習Ⅰ | 設計の考え方・材料の選択・構造・工法等を理解し、設計条件の中での設計手法を習得する。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築計画Ⅰ | 建築計画の総論および全体的概要を学び、住宅建築をはじめとする各論の計画を学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築計画Ⅱ | 建築計画の総論および全体的概要を学び、学校、幼稚園などの計画の手法を学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 都市計画 | 芸術と科学と言う性質の異なる二つの領域で構成される都市計画、人と環境との関わりを学ぶ。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築史 | 建築の流れを時代に沿って学習し、様式と建築家の名前を覚え、住宅の歴史を理解する。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築環境工学Ⅰ | 安全・衛生的かつ快適な環境を実現するための計画の基礎的知識を修得する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

(工業専門課程 建築学科 (夜間部)) 平成29年度

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|------|------|--------------|---|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 構造力学Ⅰ | 建築物が荷重等に対してどのように変形し、部材内部にどのような力を生じるか学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 構造力学Ⅱ | 静定構造の応力算定について学び、二級建築士試験に対応する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 建築構造Ⅰ | 鉄筋コンクリート構造に関する一般構造と構造設計について学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築材料学 | 一般的に用いられる建築材料の基本的性能、性質について理解し、材料学全般の基礎を学ぶ。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築施工Ⅰ | 各種工事（特に躯体）でのQCDSの管理について学び、工事管理に関する必要な知識を身につける。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築法規Ⅰ | 基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低限の基準を学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 図学・建築パースⅠ | 立体や空間図形をイメージし、そのイメージをペーパーやディスプレイ上にスケッチする。 | 1前 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | | ○ ○ |
| ○ | | | 建築造形演習Ⅰ | 建築設計の基礎となる質感・ボリューム感・色彩感等に加えて、空間とスケールの関係について学ぶ。 | 1後 | 32 | 2 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築CAD設計製図演習Ⅱ | AutoCADの基本的なコマンド操作を覚え、作図技術を習得する。 | 1後 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築設計論 | 設計を取り巻く様々な状況を概観把握し、自らの造形に意味を創造することを目指す。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築CAD設計製図演習Ⅲ | 建築の中のソフトな面（デザイン・色彩など）を他のCADと結びつけながら、実践に役立つ操作を身に付ける。 | 2後 | 32 | 2 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築CAD設計製図演習Ⅴ | 同Ⅳの内容を基に、3D-CADソフト(ArchiCAD)を用いた課題作成を行う。 | 2後 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | | ○ |

(工業専門課程 建築学科 (夜間部)) 平成29年度

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|------|------|-----------|--|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 建築設計製図演習Ⅱ | 住空間 (LDK, 寝室、バリアフリー、水廻り等) を計画し、全員で講評会を行う。 | 2後 | 32 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 建築設計製図Ⅴ | 鉄骨建物の製図を通して、鉄骨図面の作図の仕方を学ぶ。 | 2前 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築設計製図Ⅵ | 美術館、事務所ビルの設計を行う。 | 2前 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築計画Ⅲ | 図書館、美術館、事務所、百貨店、ホテルなど基本的な知識を学び、設計の手法を理解する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築計画Ⅳ | 劇場、集会施設、老人ホームの基本知識を学び、設計の手法を理解する。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 住居学 | 現代の都市における住まいに関して、どんな知識が必要か理解する。 | 2後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築環境工学Ⅱ | 建物内部の環境に関する基礎を理解する。特に、日照と日射、採光と照明について学ぶ。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築設備Ⅰ | 建築物における設備の必要性や役割について学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築設備Ⅱ | 衛生・空調設備を中心に、設計及び計画上必要な基礎的な知識を学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 構造力学Ⅲ | 応力度、部材の変形、座屈、不静定構造の解析について学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 建築構造Ⅱ | 木構造の材料的特徴、構造形式や構造的特長を学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築構造Ⅲ | 鉄骨増の材料的特長、構造形式や構造的特徴について学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |

(工業専門課程 建築学科 (夜間部)) 平成29年度

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|------|------|--------------|--|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 建築材料実験 | 建築材料学で学ぶコンクリート、鋼材の性質を実験的に確認する。 | 2後 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 建築施工Ⅱ | 仕上げ工事、設備工事の概要について学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築法規Ⅱ | 建築確認申請を基本に、各種資格・行政機関・消防機関への手続きについて学ぶ。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | ランドスケープデザイン | 環境問題をはじめとして、建築設計に役立つ外構計画の技術・材料等について学ぶ。 | 2後 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 測量学実習 | 測量学の基礎知識の習得と測量機器(トランシット・レベル等)の操作方法を学ぶ。 | 2後 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 建築CAD設計製図演習Ⅳ | 3D-CADソフト(ArchiCAD)の基本的な操作を学ぶ。 | 2前 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 国家試験対策Ⅰ | 二級建築士試験学科Ⅰ(計画)の過去問題を中心とした対策授業。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 国家試験対策Ⅱ | 二級建築士試験学科Ⅱ(法規)の過去問題を中心とした対策授業。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 国家試験対策Ⅲ | 二級建築士試験学科Ⅲ(構造)の過去問題を中心とした対策授業。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 国家試験対策Ⅳ | 二級建築士試験学科Ⅳ(施工)の過去問題を中心とした対策授業。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 国家試験対策製図Ⅰ | 二級建築士試験(製図)の作図対策授業。 | 2後 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | | ○ | |

| （工業専門課程 建築学科（夜間部）） 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|------------------|------------------|-----------|--|---------|--------------|-------------|-----------------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実験・実習・実技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | 国家試験対策製図Ⅱ | 二級建築士試験（製図）の作図対策授業。エスキスから作図までの一貫課題の対策授業。 | 2後 | 60 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | | | 47科目 | | 1824単位時間（118単位） | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|--|----------|-----|
| ①最終学年の終了時において、履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格し、当該学年における単位数を取得していること。 ②出席率が当該学年の出席時間数の90%以上であること。 ③国土交通省が定めた規定の時間を満たした者 ④学生としてふさわしい生活態度であること。 上記基準を満たせない者は、他の成績科目、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 15週 |

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。